

「顎矯正手術後の経静脈的自己調節鎮痛法の有用性に関する実態調査」に関する研究

1. 研究の対象

2011年1月から2020年8月31日までに当院で顎変形症と診断され顎矯正手術を受けた患者さん。

2. 研究目的・方法

あごの形や大きさの異常、両者のバランスの不均衡によって噛み合わせの異常や顔の変形などの症状を示すものを顎変形症といいます。治療には、骨切り術というあごの骨を切る顎矯正手術を行います。手術後は、痛みが出現することが予測されるため、痛みを緩和する目的で鎮痛を行います。鎮痛方法には様々あり、その1つとして、経静脈的自己調節鎮痛法（intravenous patient-controlled analgesia, IVPCA）と呼ばれる患者さんが痛みを感じる場合には、自己判断で投与できる鎮痛方法があります。しかしながら、嘔気・嘔吐等の副作用もあるため、適切な投与濃度については、明らかではありません。顎矯正手術後のIVPCAに対するより適切な使用方法を導き出すために、顎矯正手術後におけるIVPCAの疼痛管理に関する臨床研究を計画しました。

研究期間は学校長承認後から2021年12月31日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

医師が作成した診療録を基に性別、年齢、手術内容、鎮痛方法、吐き気の有無、入院期間、顎間ゴム牽引開始時期、を調査情報はすべて匿名化した上で使用します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

防衛医科大学校病院歯科口腔外科

職名：助教 氏名：吉川 秀明

e-mail:shumei@ndmc.ac.jp

資料 3

電話:04-2995-1511 内線 5141